

本当の姿を見たくて OQL向上のために



シャローム富士川概要

- 平成17年5月
(福)富士厚生会が静岡県富士市北松野
にユニット型特別養護老人ホーム開設
- ・入所80床・ショートステイ10床
計90床(10ユニット) ・平均介護度4.3
 - ・デイサービス にこにこホーム 定員30名
 - ・居宅支援介護事業所

今回の発表にあたって

入居当初暴言、暴力が見られる入居様がおられました。ご家族からご自宅での生活の様子を伺うととても優しく穏やかな方であったことが分かり、なぜ暴言、暴力が見られるのか、その根本的な理由について考え改善することでご自宅で生活されていた頃のような本当の姿を再び見る、取り戻す糸口になるのではと今回の取り組みに至りました。

対象入居者様

- ・年齢ー97歳
- ・病歴ーアルツハイマー型認知症
- ・介護度ー5
- ・認知症度ーⅣ
- ・寝たきり度ーC1

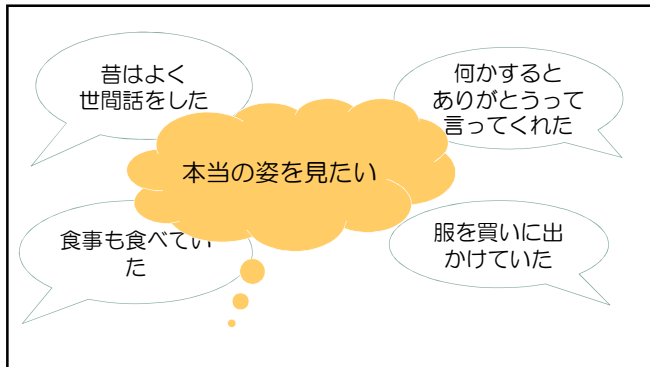
※なお、プライバシー保護の為、一部の記載内容に対して論旨に影響を生じない程度に変更を加えています

現在に至るまで

- ・平成28年7月入居
- ・尿閉塞のため尿道カテーテルを挿入されていましたが、それを引っ張り抜いてしまう危険性がありつなぎ服を着用し入居
- ・興奮され落ち着かない時には頓服の向精神薬の服用
- ・大きな声での暴言
- ・夜間のオムツいじり、それに伴う不眠
- ・ケアに対する拒否・暴力
- ・食事、水分摂取に対する拒否



点滴開始



1 つなぎ服を洋服へ更衣

普通の生活を生活送る中でつなぎ服は着ない
ご自宅で生活されていた頃のように洋服を着て頂きたい
手が動くのに身体の触りたい所を触れないことがストレス
なのではないか

○ご自宅で生活されていた頃のように洋服を着て頂けた、
身体の触りたいところに自由に触れるようになった
×夜間のオムツいじり,尿道カテーテル抜去のリスクが
高くなる

▶オムツいじりや尿道カテーテルを引っ張ってしまう
根本的な理由を改善すべき

2 尿道カテーテルを外してみる

リスクを有してまで尿道カテーテルを使用する
意味はあるのか

尿道カテーテルを引っ張ってしまったり、夜間オ
ムツいじりをされるのは不快感があるからではな
いのか

○自然排尿があり尿量も問題無く、尿道カテーテル
を外す事が出来た

×夜間のオムツいじりは無くならなかった

▶バット内に排尿が出ていて不快なのでは

3 排尿リズムをつかむ 自然排尿を促す

夜間のオムツいじり、それに伴う不眠はバットに尿が出てい
る事が不快だからなのではないか

すっきりと排尿,排便が出来ていないからオムツいじりをし
のではないか

×本人様への説明不足,強すぎる腹部マッサージ,不眠は改善
できなかった

→○トイレに行く前に目的を伝え同意を得る,優しく腹部マッサージを
施行する事でトイレでの排泄に慣れて下さり「おしっこ」と訴えて
下さるようになった,オムツいじりが無くなった

▶不眠の原因はバット内に出ている排尿の不快感だけが原因ではない

4 不眠の理由を探る

日中起きていて夜眠るという普通の生活リズムを取り戻し
て欲しい

眠れない原因を取り除き不眠を改善したい

○「痛いよ」と留置してある点滴の針を触っており
看護師との協議で点滴の針が気になり眠れないのでは
と意見が上がった

×点滴の針を触ってしまい抜いてしまう危険性がある時は
頓服の向精神薬を服用して頂いた

▶点滴をしなくてはならない状態を改善すべき

5 食事,水分の自力摂取を促す

介助されることが嫌いなのではないか

ご自分で食べれるように工夫すれば食事,水分を
摂って頂けるのではないか

○食事に手を伸ばす様子が見られた

食事に関心をもって貰えた

×食事,水分摂取量のアップには繋がらず点滴は続けた
食事,水分摂取に意欲を湧かせることは出来なかった

▶食事の味や感触の問題なのでは



6 主食をお粥に変更し 好みの味付けを探る

ペースト食が美味しくないのでは

好きなものを食べて頂くことで食べることへの興味,意欲を引き出せるのではないか

〇口に合う好きな物,ある程度柔らかいものなら固形物も食べることが出来ると分かった,必要な摂取カロリーを摂れるようになった,食事摂取に意欲が湧いたことで水分も摂取してくださり点滴をする必要もなくなった

◎⇒不眠の解消,向精神を服用することがなくなった

活動の評価

面会に来られたご家族様より「おばさん、人間らしくなったね」と言って頂けた

日中活動し夜眠る生活リズムを取り戻すことが出来た
食事を摂るという意欲を取り戻すことが出来た
在宅での生活に近づけることが出来た

→ “生活の質を向上できた”

暴言・暴力見られなくなりケアに対して「ありがとう」と発言が聞かれるようになった

→ “本当の姿を見る事が出来た”

今後の課題

①現在の食形態を維持し食事摂取量の向上を狙う

②食事だけではなく、整容にも興味を示して頂けるようアプローチしていく事で他者との関わりを持ちたい,外に出たいという気持ちを引き出して外出支援に繋げ、入所以前に好きだった買い物を楽しんで頂きたい

御清聴ありがとうございました

